「解答例」

選抜区分	平成 31 年度　（選抜区分：推薦） 経済学部　　（科目名：小論文）

設問 1

(標準的な解答例)フェイス・トゥ・フェイスでのインフォーマルなコミュニケーションや、偶然の出会いといったものが、知識社会においては今まで以上に重要になってきている可能性が高い。なぜならイノベーションは意図的には起こせないからである。たとえば、もともと多様な人がいる場所に自らも身を置いて、たまたまパーティで出会ったとか、カフェで起業家同士が意気投合してビジネスが生まれたとかの場合がほとんどである。こうしたインフォーマルな情報が価値を持つようになるので、筆者は、人々がますます都市に集まるという流れは不可逆であると考えている。（254 文字）

設問 2

(標準的な解答例)筆者は、一極集中の下での地方都市のあり方として、グローバルとローカルをどうやって折衷するのかが重要と述べている。筆者は、グローバル化は国と国の間で起こっているのではなく、ある国の特定の都市・地域と、別の国の都市・地域との間で起こっていると考えている。たとえば、アメリカと台湾との間の起業分野やハイテク産業の経済取引は活発化しているが、そのほとんどはシリコンバレーと台湾の新竹市という都市間で起こっている。つまり、国全体がフラットにつながるのではなく、ギザギザ状のグローバル化が起こっているのである。筆者は、人の相互往来がネットワークをつくり、ネットワークビジネスを生み出している可能性があり、人脈、人材の偏った集積が、企業活動のスパイキーなグローバル化を生んでいると考えている。そのため、ハコモノをつくって誘致を図るよりも、ソフト面での人的交流を活性化させたほうがきっと効果は高いと考えている。(397 文字)

設問 3

(標準的な解答例)私はメールや SNS などのコミュニケーションはイノベーションを促進しないと考える。筆者はイノベーションが起こる条件としてフェイス・トゥ・フェイス（相手と向かい合った）でのインフォーマルな（くだけた）コミュニケーションや偶然の出会いといったものが重要であると主張している。メールや SNS は時間や場所を問わず他者とのコミュニケーションを可能にするが、文字情報のみでのやり取りのため、成果が不確実なイノベーションのような作業には、相手と向かい合った会話のほうが向いている。例えば文化祭でまったく新しい出し物のアイデアを出し合う状況を想定しよう。メールや SNS などのように文字情報のみでやりとりするよりも、実際に面と向かってくだけた雰囲気で話し合ったほうが、議論が行き詰った場合に雑談などを通じて気分転換しながら議論を継続できる。このようなコミュニケーションの環境は、他者の知識と出会うことで当初に自分が考えていなかったアイデアにたどり着くのに適している。以上の理由により、メールや SNS などのコミュニケーションはイノベーションの促進には不向きだと考えられる。(467 字)